

産業の歴史をひもとく年代記 沖縄産業 クロニクル

県民の暮らしに密接に関わる
さまざまな産業はどう始まった？
その変遷と展望を紹介します。

監修・山内昌斗(専修大学経営学部教授)



沖縄の魅力と観光産業

第3回 観光編

昭和のはじめ、日本は慢性的な経済不況にあり、沖縄もソテツ地獄と呼ばれる苦境に陥りました。事態を打開するために人々が試みたのが、観光産業の育成。しかし、貧困にあえぐ島は観光の魅力に乏しく、やがて戦時色が強まると、観光産業による発展の夢は消え去りました。戦後しばらくすると、日本本土から沖縄戦で親族・知人を亡くした人々が、慰霊の旅で沖縄を訪れるようになりました。一方で、米国統治下の沖縄には舶来品があふれており、ショッピングを目的とした観光客も増えてきました。この動きをみた米国民政府は、沖縄の海洋観光地化を企画し、ハワイなどに調査

本土復帰前の
沖縄旅行は
パスポートが必要



観光客を迎える「WELCOME TO NAHA」のゲートが特徴の1967年の那覇空港(沖縄県公文書館所蔵)



ドルで買い物を楽しむ観光客(那覇市歴史博物館提供)

沖縄国際海洋博覧会は
本土復帰記念の
一大イベント



1975年の沖縄国際海洋博覧会開催に向けて設置されたカウンタダウンタワー(沖縄県公文書館所蔵)



海洋博PR団出発式(沖縄県公文書館所蔵)



海洋博の水上ショー(沖縄県公文書館所蔵)

団を派遣。リゾートという言葉がまだ知られていない時代、人々は海が観光資源になるということに疑問を抱いていました。本土復帰後、県は観光開発基本計画の策定、観光振興条例の制定などにより、観光産業の育成に力を注ぎます。観光関連団体や民間企業も調査研究やイベント開催などにより、観光産業の活性化を試みました。こうし

た施策が功を奏し、令和元年には入域観光客数が1千万人を突破。観光は沖縄の主要産業へと発展を遂げました。近年では、沖縄の自然や観光施設、歴史や文化の魅力に加え、沖縄の人々の温かさや優しさといった内面にひかれ、訪れてくる人々も増えました。観光立県としての沖縄の魅力はさらに深まりつつあります。



NHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」は1990年代後半からの沖縄ブームの火付け役に。舞台となった小浜島には記念碑も建てられている(竹富町観光協会提供)



1990年頃の那覇市泊港での海中観覧船試乗会(那覇市歴史博物館提供)



2014年に運用開始した那覇港泊頭若狭バースは沖縄のクルーズ船観光の玄関口に

沖縄観光年表

昭和

1936年 沖縄観光協会設立

1937年 大阪商船「沖縄視察団」観光ツアー実施

1941年 那覇市波の上に沖縄初の貴賓ホテル、沖縄ホテル開業

1960年 琉球政府工務交通局長陸運課に観光係を新設

1975年 沖縄国際海洋博覧会開催

1976年 沖縄県観光開発基本計画(第一次)策定

1977年 JAL沖縄キャンペーン開始

1978年 ANA沖縄キャンペーン開始

1979年 沖縄県観光振興条例制定

平成

1990年 第1回世界のウチナーンチュ大会開催

1992年 首里城公園一部開園

1996年 (財)沖縄観光コンベンションビューロー発足

2000年 九州・沖縄サミット首脳会合開催

2000年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録

2001年 NHK「連続テレビ小説」で『ちゅらさん』放映

2002年 沖縄美ら海水族館開館

令和

2019年 火災により首里城が焼失

2021年 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」がユネスコ世界自然遺産登録

2022年 NHK「連続テレビ小説」で『ちゅらさん』放映

注目トピックス



3 (在りし日の首里城正殿)

琉球王国の象徴、首里城

沖縄戦で焼失した首里城は1992年に一部復元されましたが、2019年10月に発生した火災により再び焼失しました。火災後多くの支援が寄せられ、2022年11月より復興工事がスタート。現在は「見せる復興」をテーマにした工事の様子が見学できます。2026年の正殿完成に向け復興の歩みを着実に進めています。



2 (御菓子御殿での初期の紅いもタルト製造風景/御菓子御殿提供)

読谷村の村おこし事業から誕生

1986年に読谷村で、村おこし事業として開発されたのが御菓子御殿の「元祖 紅いもタルト」。現在では日常的なお菓子、そして沖縄の代表的な土産品として定着しています。地域への想いが込められた紅いもタルトの成功は、地域活性化の成功事例としても注目されています。



1 (沖縄国際海洋博覧会メイン会場アクアポリス/那覇市歴史博物館提供)

祖国復帰記念！沖縄国際海洋博覧会

1975年に開催された沖縄国際海洋博覧会は、沖縄の経済発展の起爆剤になることが期待されましたが、石油危機による景気後退期と重なり、入場者は伸び悩むことに。開催後には倒産や失業者も増加。ただ、道路や港湾、空港などのインフラ整備が進んだため、沖縄の観光産業興隆の契機になりました。

さらなる発展の鍵を握る高付加価値化

本島北部に新たなテーマパーク「ジャングリア」が、2025年開業予定であると発表されました。沖縄観光産業は滞在日数の長期化、1人当たり観光消費額の増加の達成といった課題を抱えてきました。ジャングリアの誕生をきっかけに、沖縄観光産業が量(観光客数)を追い求めてきた観光から、質(高付加価値)を重視した観光へと変わることができるのか注目されています。



画像提供：ジャパンエンターテイメント